



千八百七十九年八月廿六日刊行「シヤパン」ヘラルド新聞抄譯
 米國貿易弗交換ノ議案 P. 支那ニ於テ貿易弗流通ノ事

大藏省
 翻譯課

420



114
A 3500



和田信郎 譯

大正十一年四月
限侯爵邸寄附

四二

米國貿易弗交換ノ議案附支那ニ於テ談弗ノ流用ノ事
 過ル六月十八日米國ノ下院ニ於テ造幣度量衡委員ノ席長タル
 スラブンス氏(州ノ議員)カ米國貿易弗ヲ引揚ントスル議案ヲ
 發議レ之カ討議ヲ望ミシ所モルトシ氏(新約克州ノ議員)ハ此議案ヲ視
 テモカニ支那人民ヲ救助セントスル議案ニ異ナラスト云リ
 蓋シ嚮ニ千八百七十三年二月始テ貿易弗鑄造ノ議ヲ決セルヤ
 之ヲ通貨トシテ鑄造スルノ故ニ非カルヲ以テ亦國內流通ノ用
 ニ供セントシタルニ非ス惟之ヲ輸出スル目的ヲ以テ外國貿易
 上諸物價ノ秤量トシテ用ンカ爲ニ鑄造レタル所ニシテ乃テ價
 易弗ノ名稱ニ是ニ因ル然ルニ爾後此弗ヲ以テ法貨トナレ一口
 五ノ以テ流用セルメントセシカ令衆國內外平海道ノ
 諸州ニ於テ之カ流用ヲ拒ミシニ依リ此定規ヲ廢止シテ終ニ亦

法貨タルニ至ラス蓋一始ニ此銀貨持運ノ際ニ於テハ一弗ニ付
金銀ノ...
今造幣局首長ノ概述ノ年報ニ於レハ喜ヲ輸出ノ目的ヲ以テ鑄
造シタル貿易弗ニシテ尚不現今米回ニ^豆適^豆コルモノハ僅ニ六百
万ニ過ストス而シテ又支那ニ輸出シタル高ハ大約三千万ニシ
テ此等ハ皆訪地方ニ於テ通貨ノ性質ヲ負テ受授流用スト云ハ
リ且ワ該首長ノ所見ニ於レハ斯ク支那ニ流用スル貨幣ノ價格
一ニ皆地金ノ價ニ憑準ストス故ニ其年報層ニ現今支那ニ流
用スル貿易弗ハ一弗ニ付九十九セント止ノ割合ナルヲ以テ三千
万ノ流用貨幣ハ其実額ニ於テ二千七百万弗ニ當ルト云ハルモ
畢竟其地金ノ價ニ準則ヲ取レハ也
今若シカテブレニス氏ノ議案ヲシテ法律ヲシメハ米政府銀弗
ヲ一ニ金貨ト米等ノ價格ヲラシメテ之ヲ法貨ト定ムルノ間ハ

三千万ノ貿易弗ヲ所有スル支那人ニ向テ銀貨ニテハ二千七百
万ニ當ルモノヲ金貨ニシテハ三千万ヲ以テ買上クルノ割合ニア
ラスヤ果シテ此ノ如クナルハ同一ノ銀量ヲ購フニ當リ三百
万弗ノ違差アル所以ニシテ乃チ支那ニ於テ之ヲ購求セシニハ
米回ニ於テスルヨリモ餘分ニ三百万弗ヲ出カ、ルヲ得ガカルベ
シ
斯ク米支兩國ノ間ニ於テ違差アルハ一見シテ其然ル所以ヲ知
ルベシ乃チ「ステブレニス氏」モ其違差ノ割合如何ヲ算定シテ云ハ
ラク支那人民ノ為ニ是割差歩ノ利ヲ與フルニ當ルト是ヲ以テ
氏ハ若シ其議案ヲ議決シタルハ之ヲ實施スルニ至要トスル
所ノ三千万弗ニ如何ナル手段ニテ備フルヲ得ルヤ之ク方略ヲ
瑪^マ...
ル貿易弗ヲ四百十二ガレイン半 庶貨幣ト交換センヲ支那

人ニ要スルハ猶ホ鯨木赤魚ノ如クナカ故一氏ニ於テモ亦之
タル紳士ハ彼ノ貿易弗ヲ所ナスル支那人ニ空シク三百万弗ヲ
贈與スルヲ欲スルヤ否ヤ
ワル子此氏（オハバ此議案ニ修正ヲ加ヘント欲シ曰
ク支那其他外邦ニ派用スル我貿易弗ノ斷削セラレタルカ或ハ
再ニ極印ヲ受テタルモノハ皆除去シテ之ヲ法律ニ向ハサルモ
修正セント欲スト於是暫ラク議論アリテ結局ニ至ラヌ尚
ホ翌日ノ審議ニ讓ルトセリ
アプリンジヨ此氏曰ク嚮ニ千八百七十六年貿易弗ノ法賃タル
性質ヲ剥取セントセル發議アリシ時議負三分ノ二ハ皆之ニ抗
論シタルヲアリト言ヘリ
モリ（イ曰ク曩者貿易弗ノ法賃ヲ

口

ル性質ヲ剥取シタルヲ云レモノハ議負中僅ニ一二名ニ過
キサルヘント云ヘリ
コラブレシ氏ハ飽迄本議ヲ主唱シテ言ラク若シ本議ヲ実施ス
ルノ日ニ至テハ貿易弗所有ノ支那人或ハ投機ヲ事トスル人々
ヲシテ決シテ自己ノ利益ヲ恣マニセシムルモノニ非スシラ
ハ支那ノ職工社會ニ多少ノ利益ヲ與フルヲアルヘント言ニ討
論スルヲ止メタリ是ニ於テワル子此氏ノ修正説即チ支那ニ
派用スル貿易弗ノ斷削セラレタルカ或ハ再ニ極印ヲ受ケタル
モノハ除去シテ之ヲ條例ニ向ハサルモノトシ且ツ此條例（ア
議案ヲ云フ也）ニ照依シテ改鑄スル所ノ貿易弗ハ千八百七十
八年二月二十八日議決ノ條依ニ依テ鑄造シタルモノニ部分内
ニテ採用スルニ至レリ
然ルニワル子此氏（イ一本議ヲ取ラステ貿易

佛ヲ以テ五佛以下 法貨タラシメテ 勿ホ流用セシトテ 癸言
レバ 此等ノレ
抑モカテ アニムスノ 議案ニオテハ 議負ノ 説区々ニ 渉ラサルヲ
以テ 総体之ヲ 可トスルニ 決シ 尚ホ 後日ノ 會議ニ 於テ 審議ヲ 期
スルニ 至レリト云フ

